

□議員名：杉本 保喜

## 1 防災体制について

論点	コロナ禍における防災体制は十分に整っているか。コロナ禍での収容人数や用具の準備、借用ホテルの態様等はどうか。
回答	一次避難所は 15 施設あり、臨時避難所も想定しているが、コロナ禍での適切な収容人数とそのため準備は、検討中である。市内のホテル等への災害時応援協定の件は、避難者が多い場合に協力していただくことを想定しており、トリアージ後を想定していない。ホテル待機等の件は、県との事前協議となる。

論点	山陽小野田市避難所開設・運営マニュアルが作成されたが、運営スタッフとなる市民向けのハンドブックを作成する予定があるか。
回答	今後も地域の協力を得ながら、手引の作成を順次進め、市民向けハンドブックと位置付けたい。

論点	先のマニュアルにおいて、避難所開設における開錠手段の多重化を図るための避難所開設手順において、自治会等との協定後にセキュリティ確保のため、鍵を封緘し、緊急時のみ開封するとの文章は両者間の信頼を考えた時、再考の余地があるのではないか。
回答	他市の状況等を参考にしつつ、開錠手段の多重化について再度研究したい。

論点	防災ラジオと Jアラートの連携整備はどうか。
回答	防災ラジオの配布は、市セーフティネットの協力もあり全自治会に配布、災害時の要配慮者施設や関心ある事業者にも行き渡ったと考えている。現在、不感地域はないと承知している。Jアラートと学校等への連携作業は、接続機材を各校等へ運び、確認するが、本年度の全国 Jアラート試験放送での確認には間に合わないだろう。 また、本作業終了後は、FM局と共に広報活動を盛んにしたい。

論点	防災危機管理監を中心とした具体的な防災危機管理システムはあるのか。
----	-----------------------------------

回答	防災危機管理監は、この 4 月によりやく配置できた。防災のアドバイザーとして研修等やりながら防災力向上を図っていく。内閣府の防災マネージャーの研修は次年度も予算化したい。
----	---

## 2 地産地消について

論点	平成 18 年 3 月 10 日に策定された本市の地産地消推進計画にある「山陽小野田市旬菜惑星推進会議」の活動と成果はどうか
回答	小学生を対象とした寝太郎かぼちゃ、寝太郎イモの収穫体験農林水産まつりへの出店、地元野菜を使用した商品開発を実施して P R や消費に貢献している。

論点	第二次山陽小野田市総合計画の前期基本計画から地産地消推進計画が読み取れないのだが、どのように考えているのか。
回答	学校給食は市場も民営化でスタートすることもあり、卸売業者、J A、市給食センターとも協議していく。水産業では目標値と漁獲量が変わらないのは、衰退を食い止めるための結果である。今後、この地産地消をもって地域づくり、地域の底力、これを養う必要があるとの視点を持っている。

## 3 指定管理制度について

論点	平成 30 年 12 月議会において、「制度の再検討をしたい。」と答弁された際、制度において、利用者、指定管理者、行政とのトリプルウインの必要性、モニタリング・マニュアルを定め、サービスの確保を確認することの明確化が必要と述べたが、検討結果はどうか。
回答	モニタリング事務マニュアルを定め、マネジメントサイクルの促進を図った。今回の選考で以前と同じ業者が決まったが、毎年度のモニタリングを確実に実施し、次に繋げるよう協議して進める。この制度における民間の力(指定管理者)の努力、それに対する行政の必要に応じた指導、利用者(市民)の声をしっかり反映する等、それらをちゃんと積み上げることで本来の求めるべき成果が得られるものである。このことをしっかり充実していく必要がある。